

一般財団法人京都ユースホステル協会

2020年度事業計画書

期間:2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日



“ Say Hi to the world ” ～旅の持つ力～

若者が世界（旅）の扉を開けて学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

〒616-8191 京都市右京区太秦中山町 29 宇多野 YH 内
TEL: 075-462-2312 FAX: 075-462-2289
URL: <http://www.yh-kyoto.or.jp> E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目 次

目 次	2
はじめに	3
国際ユースホステル連盟採択基準	4
事業活動	
I. ユースホステル活動	5 - 6
II. ユースホステル関連活動	7
III. 宇多野ユースホステル（指定管理事業）	8
IV. 天橋立ユースホステル	9 - 10
V. 組織運営	11
予算概要	12
組織概要	13

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大の終息が見通せない中、2020年度の事業への影響が避けられない状況です。

こうした先行き不透明な中で利用減少といった目先の課題だけでなく、I T等の活用状況による格差の拡大や若手人材の育成など、中長期的な課題への取り組みの遅れにも合わせて対応し、新型コロナウイルスの感染終息後の回復期に成果が得られるよう運営体制を含めた変革と挑戦を進める重要な年と考えます。

これまで赤字を続けていた天橋立ユースホステルの運営についても、利用の回復や人材の確保、運営の改善による持続可能な活動を見通すことができる段階へと進みつつあります。

年度前半では利用実績においては厳しい数字を覚悟する必要があると思われますが、年度後半には回復成長軌道に乗せることが出来るよう各分野での事業や運営の特色づくり、ターゲットをより明確にした取り組みの実行、これまで取り組むことが出来ていなかった他府県の大学ゼミや研究機関などの新規利用層の開拓などに計画的に取り組んでまいります。

京都観光も拡大から淘汰、選別される時期に差し掛かっており、海外での成功事例も参考にして、こうした課題を乗り越えるために事業活動、施設運営、I T活用、人材の育成やネットワークの更なる強化などに挑戦し、守りから攻めの運営へと転換を進め個人や組織の成長につなげる年度といたします。

これまで以上に職員、スタッフが力を結集し、関係機関等との連携や協力を図りながら目標実現に取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

専務理事 高田光治

『3つの原則と4つの価値基準』

《3原則》

I. 「旅する自由」「旅行者の平等」の原則

- ・ 手頃な料金の安全な宿泊施設の提供
- ・ 世界各地からやって来る人々に出会いの場を提供
- ・ 人種、国籍、肌の色、宗教、性別、階級、政治的信条に基づく差別を受けることのない宿泊
- ・ 違いや多様性の尊重
- ・ 障害者向けアクセス、奨学金／補助金での支援

II. 「学ぶ権利」の原則

- ・ 多様な文化的価値基準、人々、地域についての理解促進、好奇心の育成
- ・ 地域文化について学び、実地体験する機会を提供、間接教育の場／環境の提供
- ・ コミュニティへの参加意識（学習体験としてのコミュニティ参加）の促進
- ・ 人々／他の旅行者と長期にわたって出会う場の構築
- ・ 互いに学び合い、また他の文化や人との出会いからの学習

III. 「持続可能性に対する義務」の原則

- ・ 持続可能なツーリズム活動の推進
- ・ 財政的持続可能性／金銭的公平さ（給与）
- ・ 環境保護／二酸化炭素排出量の削減
- ・ 地域社会への貢献／フェアトレード

《4つの価値基準》

I. 利用し易さ（Accessibility）

質の高い宿泊施設をグローバルに提供することにより、旅行の促進および普及に努める。
安全かつ手頃な料金／誰でも利用出来る施設提供／旅に関する情報とサービスを提供

II. 一体性（Inclusivity）

違いや多様性を認め、誰もが自分の価値を実感し、一体感を持てるよう努める。
すべての人に開放／違いや多様性の尊重

III. 学習と理解（Learning and Understanding）

次のことを通じて学習や理解の促進、支援に努める。
旅を通じて多様な文化、人々、地域について学習／責任あるツーリズムの促進／課外活動への支援／
コミュニティの一員としての活動

IV. 持続可能性（Sustainability）

次のように環境的にも社会的にも責任ある方法で行動する。
二酸化炭素排出量およびエネルギー消費の削減／リサイクル活動を通じて廃棄物の量を制限／
地域社会活動への貢献と参加／スタッフが働き、成長し、自分の価値を実感できる場の設定／
志を同じくする組織とパートナーシップを構築

ユースホステル・イメージ



若者が世界（旅）の扉を開けて 学びや発見に出会うために
ユースホステルはいつも彼らを応援していきたい

事業活動) Ⅰ. ユースホステル活動

ユースホステルの価値を高める上で、宿泊施設としての快適性向上とユースホステル運動本来の「旅の中での出会いや交流による人間的成長に寄与する活動」の両輪は不可欠と考え、特に施設内での交流が自然と起こるような仕掛けや雰囲気の醸成、合わせてユースホステルの社会的な役割として担う「若者がチャレンジできる場や機会の創出」に努めます。

また、以前より取り組んできました宿泊に繋がる特長ある事業やプログラムの開発については、継続的に活用できる仕組みを念頭に置き、「何をする」と合わせて「なぜする」というユースホステルらしいストーリー性を大切に、可視化した上で実施します。

[事業分野別目標]

- イベント・事業活動参加者数 : 延 25,000 名 (19 年度実績見込み : 24,500 名)
- 青少年対象事業の参加者数 : 延 6,500 名 (" : 6,300 名)
- 新規・継続含め宿泊を伴うプログラムの実施 : 8 企画

[活動内容]

1. ユースホステル交流創出事業

施設のパブリックスペースの居心地の良さは、偶然の出会いや交流が生まれることに影響すると考えます。ここ数年、宇多野ユースホステルでは団体・グループが増加し、個人宿泊者との住み分けが出来ていないという課題がありました。

そこで、個人宿泊者にとっても居心地の良い雰囲気づくり・場づくりを進めます。更に、若い人や地域市民がその場で活動でき、宿泊者とも交流できる機会づくりも行います。

- a. ユースホステルの施設内で交流が生まれやすい環境づくり（雰囲気づくり、配置替え、模様替え、改修等）の企画・実施（昨年度継続）
- b. 若者（中高生や大学生、インターンシップ等）が交流事業含めユースホステルの運営に参画できる仕組みとプラットフォームの構築
ex. 長期プロジェクト型のインターンシップの運営参画
- c. 交流促進のためのイベント「エブリデイワン」の見直しと特長あるプログラムの実施
ex. 食堂と連携し国際性豊かな食事と文化紹介をセットにしたスペシャルデイの実施（年 2 回程度）



2. ユースホステル運動の普及活動

各事業はストーリー性を持ち、ユースホステル本来の「旅の中での青少年育成に寄与する活動」に繋がるプロセスである事を知ってもらい、合わせてユースホステルを利用する事でその活動にコミットできるという事を周知します。

- a. 「Sleep for Peace〜ユースホステルから旅を送ろう！」事業等を通じて、ユースホステルの利用が社会貢献活動に寄与できるという認知度向上
- b. モンベルフレンドフェアや地域のお祭りへの出展や講演等、PR・広報活動の実施
- c. 地域の歴史文化を知る団体「京都うなやと・歴史文化部」と連携し、地域市民へのユースホステルの認知度向上



3. ユースホステル体験活動の促進

国際ユースホステル連盟が提唱し、国内のユースホステルでも取り組んでいる「sleep for peace」に足並みを揃え、様々な理由で旅に出にくい子どもや家族向けの体験活動や、特に京都という土地柄を活かした学習や理解を深められるような機会の提供を行います。

- a. 「Sleep for Peace〜ユースホステルから旅を送ろう！」事業の新規実施
 - ex. ひとり親家庭、海外ルーツの子どもがいる家庭、盲導犬等を利用した旅の支援
- b. 長期休暇を利用した中高生対象のジュニアインターンシップ体験の実施
- c. 年間を通した青少年向け共催事業の継続実施
 - ex. ネイチャーキッズ、アースレンジャー、ガリレオサイエンス等
- d. 京都の住民がガイドするミニツアー「まいまい京都」の10周年記念事業と継続支援



事業活動) II. ユースホステル関連活動

個人・グループ・団体のどなたであっても、常に居心地よく食事ができ、満足度の高い宿泊につながるような美味しく安全な食事を提供いたします。アレルギーや食事に不安のある方々が、旅先でも安心して食事が出来るよう、常に新しい情報を入手し、間違いのない食事を提供します。また、参加者に喜ばれるイベントやプログラムを定期的の実施し、食を通じた文化理解につながる取り組みを行います。

上記の取り組みを実行することで、年間の食事提供数を上げることを目指します。

同時に、厨房従事者には定期的な研修の機会を作り、食中毒などの事故を起こさないことはもちろんのこと、世界基準に合わせた取り組みも積極的に取り入れます。

[事業分野別目標]

- 年間食事提供数：夕食 19,040 食 摂取率 56.0%
(19 年度実績見込み：18,836 食 摂取率 56.5%)
朝食 27,540 食 摂取率 81.0%
(19 年度実績見込み：26,847 食 摂取率 80.6%)

[活動内容]

1. 摂取数を上げるための取り組み

様々なお客様のニーズに応えられる食事提供を行い、その実施内容をマーケティング化することで摂取数の上がる食堂運営を目指します。

- a. 若者やスポーツ団体などに向けたボリュームアップメニューの提供
- b. アレルギーや宗教食に配慮した安全で美味しい食事の提供
- c. ドイツ料理やオランダ料理など、普段と違う世界のメニューを提供 (年 2 回)
- d. 地域の方にも楽しんでもいただける京都をテーマとした夕食バイキングの実施 (年 2 回)
- e. 京都の地元食材を提供する地産地消の取り組み
- f. SNS 等を使った食事内容やイベントの広報や周知

2. 安心・安全な食の提供への取り組み

正しい知識に基づくオペレーションにより、安心して摂取していただける運営を行います。

- a. 世界基準 Haccp (ハサップ) に準じた衛生管理の取り組み
- b. ウイルスへの正しい知識などの講習会実施 (年 2 回)
- c. 食べ残しやゴミの減量化
- d. 保菌検査の定期的実施 (月 1 回以上)



事業活動）Ⅲ．宇多野ユースホステル

宇多野ユースホステルが長年培ってきたネットワークを活かし、学びにつながる体験ができるユースホステル本来の利用方法を特に学生団体に向けてプロモーションを行い、ユースホステルの利用促進と価値を高めます。また、施設の特性や立地を活かし、特にスポーツ団体への誘致も行います。

海外の学校団体に対しては、地元の学校との交流事業やユースホステルでの体験プログラム等を提供することで利用促進を図るとともに、地域連携・地域貢献にもつなげます。

これらの取り組みを行うことで、計画する年間宿泊者数の確保に努めます。

〔事業分野別目標〕

- 年間宿泊者数 : 34,000 名 (19 年度実績見込み : 33,300 名)
- 年間学校団体利用数 : 105 校 (" : 101 校)
- 年間スポーツ団体利用数 : 75 団体 (" : 64 団体)

〔活動内容〕

1. 宿泊実績増への取り組み

施設の特性に合う団体へのプログラム提供や、スポーツ団体への広報を強化します。合わせて個人客への誘致もオンライン予約（OTA）を通じ行い、バランスの取れた取り組みで宿泊数増加を目指します。

- a. 学校団体へのユースホステル独自プログラムのニーズ確認と提供
- b. スポーツ団体やクラブ活動に特化したプロモーションの実施
- c. オンライン予約の利用分析を踏まえた露出強化と販売促進
- d. 青少年や市民に向けた宿泊キャンペーンの実施
- e. 海外学校団体への国際交流体験と YH でのプログラム実施

2. SDGs に則した施設運営

国際ユースホステル連盟の指針に沿った環境へ配慮した運営を行います。

- a. 水筒やマイボトルの利用を推奨し、安全な水道水を提供
- b. ゴミの再利用の徹底による環境負担の少ない運営実行
- c. ユースホステル前バス停の地元と協同した維持管理

3. 社会貢献・地域貢献

青少年育成の取り組みや社会貢献・地域貢献を、各団体や地域の方と連携して行います。

- a. 地域の子どもたちへの国際交流活動
- b. 海外からの若者インターンの積極的な受け入れ



事業活動）Ⅳ. 天橋立ユースホステル

天橋立ユースホステル運営については、これまでの指定管理の運営から施設無償貸与による運営に変わり、持続可能な運営手法や運営人材の確保を進めてきました。合わせて、2019年度の運営を通じ、利用者の増加や新しい地元の運営人材の確保などを進めることができました。

2020年度は、昨年の運営をベースに持続可能な運営を継続していくことが出来るよう、地域資源や人材、連携や活用をさらに進め、海、里、山の自然環境や観光資源を組み合わせた滞在の魅力向上を進めます。

また、地元人材のネットワークの協力による体験やプログラム提供の仕組みを開拓し、運営負担を大きくしない体験事業の提供やプログラム開発を図っていくなど、運営者がよりいいコンディションで業務に当たることができる開館日数の設定、運営の仕組みや体制、条件など、地方における持続可能なユースホステル運営手法やモデルづくりを探ります。

〔事業分野別重点取り組み〕

- 持続可能な運営や運営者の裁量を広げた契約による運営の推進
- 更なる地元資源や人材、活動を活かすための連携、取り組みの推進による魅力的な体験や滞在企画、サービスの提供
- 変化に対応した運営や新たな試みにチャレンジできる人材の育成、運営支援のネットワークや仕組みの開発
- 安定した運営を可能にする利用者の開拓推進（目標実績：3,300人）

〔活動内容〕

1. 持続可能な運営や運営者の裁量を広げた契約による運営の推進
 - a. 開館日や勤務など、運営者裁量を大きくし、持続可能な運営を探る契約による運営へ移行
 - b. よりよい状態で運営に当たることが出来る運営方法や条件の改善等の課題解決
 - c. 地方でのユースホステル運営を可能にするための必要条件などのノウハウの蓄積
2. 更なる地元資源や人材、活動を活かすための連携、取り組みの推進による魅力的な体験や滞在企画、サービスの提供
 - a. 地元人材を活用するチャンネル作り
(プログラムや体験) 地元の野外活動、エコ活動者や団体、組織との連携によるプログラム開発と提供、サイクリストとの連携
(施設運営) 地元高校の建築学科等との連携による施設の魅力づくりや改善
3. 変化に対応した運営や新たな試みにチャレンジできる人材の育成、運営支援のネットワークや仕組みの開発
 - a. オンライン予約事業者のセミナーや類似施設の運営者との交流や研究会への参加など、多様な機会を生かした運営や施設、サービス改善などを学ぶ機会の提供
 - b. 学びを運営で実践できるサポートの体制づくりの推進（地域DMOの活用等）

4. 安定した運営を可能にする利用者の開拓推進

- a. 対象を明確にしたプロモーションやサービスの提供、施設や運営の改善
- b. オンライン予約サイトの活用他、滞在者の満足向上による情報発信の強化など、デジタルとアナログ、口コミを交えた魅力の発信を強化
- c. 自然やパワースポット、眺望等の違った切り口の価値提供による評価アップや利用開拓
ex. 静かにくつろげる環境、朝夕すぐにお参りできる立地、高台からの眺望、自然に囲まれてBBQ、浜売りの新鮮な海の幸、無料の駐車場他

[月次目標実績]

月	目標実績	利用促進対象	取組内容
4	220 名	家族、サイクリスト、ツーリスト 東南アジア・ヨーロッパ等の外国人 国内の留学生、神社参拝	OTA、BBQ、浜売り体験、オン・オフラインでの情報発信
5	280 名	家族、サイクリスト、ツーリスト 大学のサークルやゼミ、スポーツ団体	地域イベント紹介やプログラム参加、BBQ やテラスでのくつろぎ発信
6	170 名	家族、釣り客、マリンスポーツ	釣りやマリン情報発信
7	350 名	家族、学生グループ、スポーツ団体	メールやネットで夏の滞在、BBQ 発信
8	700 名	家族、学生グループ、スポーツ団体	海・山・里の恵みと体験、BBQ メニュー発信
9	260 名	学生グループ、研究ゼミ、サイクリスト、地域 ワーキングホリデー、外国人欧米	海や里の体験発信、長期滞在割引やレンタル無料貸し出し企画他
10	200 名	サイクリスト、釣り、スポーツ団体	平日占有免除企画他、
11	290 名	大学サークル、サイクリスト、釣り、蟹	DM やメール、オンライン広告 OTA キャンペーン
12	200 名	家族、ゼミ調査合宿、個人旅行者	閑散期特典企画や OTA のお得企画参加他
1	180 名	家族、国内在住外国人	郷土の食体験企画・新酒やへしこ仕込み等
2	150 名	大学サークル、ゼミ、国内在住外国人、 卒業旅行	グループ割引のオンライン発信・DM、高校生の卒業旅行応援割引企画
3	300 名	家族、サイクリスト、学生サークル、スポーツ団体、 卒業旅行	早春の里山体験や浜売り他の食体験発信、丹後のパワースポット紹介
計	3,300 名		

※休館日程の設定により変動。年間 260 日の開館を想定。



事業活動) V. 組織運営

社会の状況や旅の動向の変化が激しく厳しい運営状況の中にありますが、再び事業活動を活性化できるように組織体制や運営体制の再整理を行います。

そのために、組織やスタッフが抱える課題の解決や業務の標準化・簡略化を図り、負荷の軽減や積極的な働きにつながる環境整備に努めます。

また、働き方改革への対応も継続的に取り組み、健全な組織運営を目指します。

[事業分野別目標]

- 労働条件・労働環境の見直し改善による負荷の軽減
- 働き方改革への適切な対応

- a. 勤務の負荷がより少ない勤務形態の見直しと試行
- b. 業務の標準化のためのマニュアルや手順書等の見直しと再整理の継続実施
- c. スタッフ・ヒアリングの継続実施による個々の問題や組織の課題を把握、改善
- d. 業務に必要な研修（業務研修）と希望するテーマに沿った研修（自己研修）の実施
- e. 同一労働同一賃金など、働き方改革に対応した就業規則の改正や規則・ルールの変更
 - ・ 現状の実態把握の継続と課題の抽出
 - ・ 管理職や一般職員ほか、役割と責任、業務範囲などの整理
 - ・ 給与体系や各種手当の見直し案の立案



予算概要

[予算概況]

2020 年度は、未だ終息の見通しの立たない新型コロナウイルスの影響により、特に宇多野ユースホステルでは厳しい宿泊状況が続くことを想定しています。そのため、効率化や省力化した運営を行いながら、終息後の実績回復に向けた取り組みの準備を進める計画を立てています。

2020 年度予算につきましては、宇多野ユースホステルは引き続き宿泊者の大幅減少の影響は避けることが出来ないため、2,421,000 円のマイナス予算としています。

天橋立ユースホステルは、2019 年度より施設の無償借り受けにより当協会運営を行ってまいりましたが、上半期中には運營業務全般を委託する準備を進めています。本予算では、当協会職員による運営での予算組みをしており、収支均衡予算としています。

青少年育成事業では、今まで以上に宇多野ユースホステルや府内のユースホステルを活用した宿泊型プログラム等の公益事業を進めるため、2,015,000 円のマイナス予算としています。

最終的に、収益事業である宇多野ユースホステル食堂運営や旅行事業（物資頒布会計）で他会計のマイナスをカバーし、協会全体としては 714,000 円の経常収益を計画しています。

[経営実績の推移]

	16 年度実績	17 年度実績	18 年度実績	19 年度見込み	20 年度予算
経常収益（売上）	217,538,436	214,339,353	198,404,625	190,590,743	192,431,000
ユースホステル活動及び関連活動	60,002,708	63,004,591	58,260,571	55,590,943	55,528,000
指定管理業務及び YH 運営	147,867,155	142,191,531	130,710,600	125,853,352	127,934,000
組織運營業務	9,668,573	9,143,231	9,433,454	9,146,448	8,969,000
経常費用（費用）	211,008,692	210,018,271	201,744,193	191,998,010	191,717,000
ユースホステル活動及び関連活動	55,758,753	56,369,907	53,730,216	53,043,882	52,434,000
指定管理業務及び YH 運営	145,933,870	143,746,095	138,033,091	130,907,403	130,355,000
組織運營業務	9,316,069	9,902,269	9,980,886	8,046,725	8,928,000
当期経常増減額（経常利益）	6,529,744	4,321,082	▲3,339,568	▲1,407,267	714,000
経常外増減額（経常外利益）	▲5	▲1	▲869,935	0	0
当期正味財産増減額（純利益）	6,529,739	4,321,081	▲4,209,503	▲1,407,267	714,000
次期正味財産期末残高	91,955,926	96,277,007	92,067,504	90,660,237	91,374,237

（内、公益目的事業）

	2016 年度実績	2017 年度実績	18 年度実績	19 年度見込み	20 年度予算
公益目的財産額（期首）	53,968,351	53,845,519	50,657,098	38,829,226	31,025,410
公益目的収支額	▲122,832	▲3,188,421	▲11,827,872	▲7,803,816	▲4,942,000
公益目的財産額（期末）	53,845,519	50,657,098	38,829,226	31,025,410	26,083,410

[2020 年度予算]

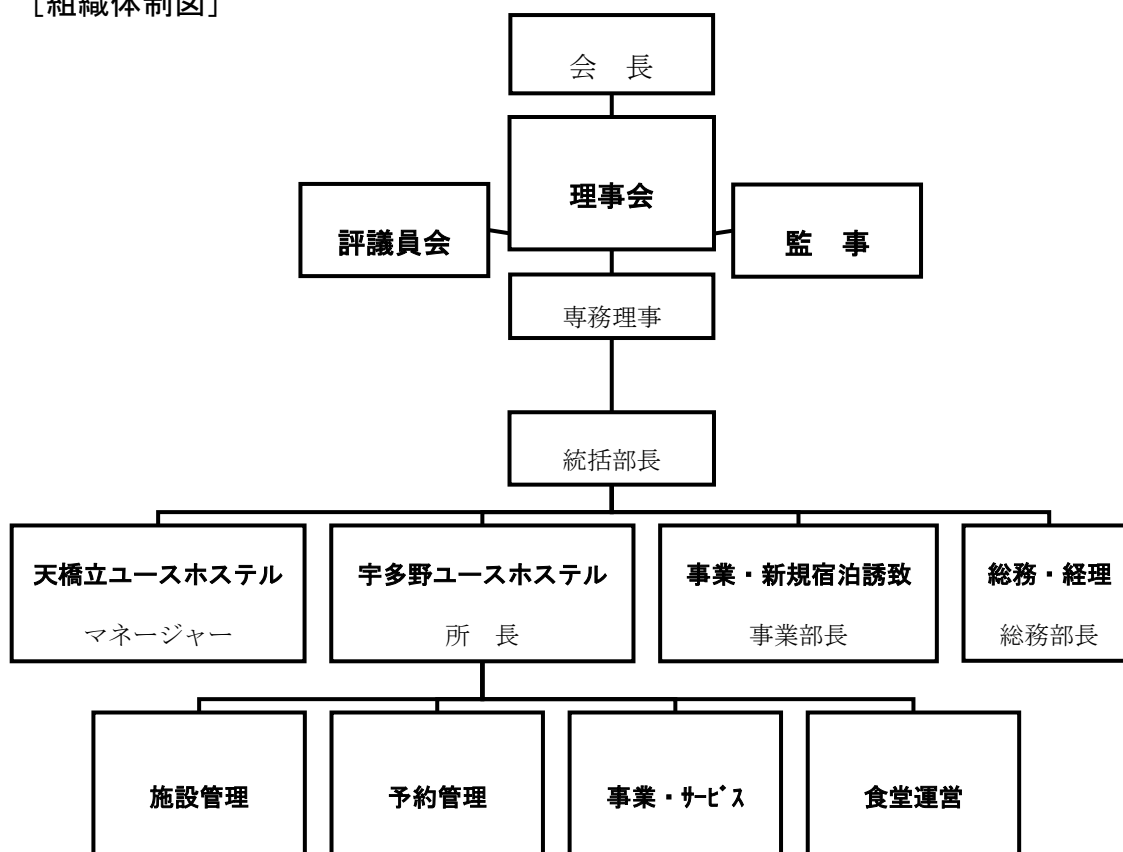
※ 別紙「2020 年度事業予算（案）」をご参照下さい。

組織概要

〔組 織〕

現状を打開するために新たな職務と役割で新たな取り組みに挑戦し、ピンチをチャンスに変え、組織と個人の更なる成長と飛躍を目指します。

〔組織体制図〕



〔協会役職員数〕

評議員：6名、理事：8名、監事：3名、職員：28名（アルバイト・パート含む）

〔協会名〕	一般財団法人 京都ユースホステル協会
〔代表者の役職氏名〕	会長 堀場 厚
〔財団設立〕	1968年2月12日
	※ 2011年8月1日（一般財団法人へ登記移行）
〔協会所在地〕	京都市右京区太秦中山町29 宇多野ユースホステル内
〔電話番号〕	075-462-2312（代表）